

このグラフから下記のようなことがいえる。

①被実験学級は標準よりも非常におちこんでいる。これは、学級担任の事故等で担任が3人目というハンデがあったものと考えられる。また拍子感は、指導の手が加わらないと伸びないということがわかる。(旋律感とくらべ)

②3つの要素とも実験学級は標準よりよく、特に終止感の成績はよい。その要因として考えられることは、次のとおりである。

ア 指導計画の中に、創造するもの・身につけさせるものを明確に位置づけ、学習を進めてきたこと。

イ 歌唱表現を中心に進めたことはもちろんであるが、身体反応や身体表現を多くとり入れて感覚面にも力を入れてきたこと。

例としてギャロップについて前記したが、それにより同旋律の反復や違う旋律の出現・終止・リズム変化等を感覚的に把握することができる。

※新指導要領による教育課程の実施で、音楽能力診断テストの内容全部を今までのように実施できず、比較評価を三つの要素にとどめざるを得なかったことを残念に思う。

●これからの教育を考えると、「技術」か「歌ごころ」を育てるのかの二つの論が現在もある。この両者は二輪であり、比は問えない。しかし、公教育としては、単に技術ではなく、音楽的感覚を基礎に豊かな音楽活動を通しての「心情の育成」こそ、豊かな人間性に結びつくものと考ええる。短かい実験のしかもまだ検討の余地を残した指導課程ではあるが、参考になれば幸いである。

以上

1. 学習指導要領 一般編及び音楽編
2. 音楽科学習指導資料 船橋市教育研究所 発行
3. 協力校
 船橋市立海神南小学校 } 指導案及び
 船橋市立小室小学校 } 授業
4. 実験学級
 船橋市立小室小学校 2学級

- 旋律聴音に慣れさせる。
- 曲趣にあった楽器をえらび演奏する。

(3)展開

学習内容と活動	留 意 点	備 考
<p>1. ゆうやけの歌唱 2. 学習のめあてをつかむ</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">この曲にあうがきをえらんでしょうずにえんそうできるようにしましょう。</div>	<p>声をそろえる。 (どならない)</p>	
<p>3. 表現練習をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●旋律を聴いて階名唱する。 ●旋律を聴いてハーモニカで吹いてみる。 ●トライアングルや大太鼓の打ち方を復習する。 ●シンバルの名称や持ち方、奏法を知る。 ●「ゴーン」にあう楽器をえる。 ●歌にあわせて選んだ楽器を打つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●オルガンの音をよく聴く。 ●たたく位置 ↓ よい音がでる場所を見つけさせる。 ●ばちの種類を変えて、音色をよく理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●トライアングル ●大太鼓 ●シンバル ●ばち（大太鼓や木琴）
<p>4. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●気持ちをこめて歌う。 ●楽器を入れて演奏してみる。 ●反省 ●次時の学習内容を知る。 		

一年 音楽科指導例(鑑賞) 船橋市小室小にて

※スペースの関係でごく簡単に記す。

1. 題材ギャロップ(組曲 道化師から)

カバレフスキー作曲

2. 題材について

- ギャロップは、馬の走り方の一種であるが、そこから転じて跳躍するステップの速い舞曲のことをいい、2(4)拍子のリズムで19世紀になって流行した。カバレフスキーは現代ソ連

の音楽界を代表する一人で、特に子どもの音楽教育に情熱をかたむけており、この曲も子どもたちのために作られた曲で、オーケストラの特性をよく生かしわかりやすい内容でまとめられている。

- ギャロップは、ふつう三部形式であるが、この曲もABAの三部になっている。

序奏(12)A(16) 間奏(10)A'(16) 間奏(4)B(16) 間奏(8)AA'

3. 目標

- (1)身体反応を通して、軽快なりズムを感じとらせる。
 - (2)木琴の音色に親しませ、いろいろな楽器の響きを味わわせる。
 - (3)主なふしのくり返しに気をつけて聴かせる。
- ※子どもたちは必ずといってよいほどこの曲を聴くと身体を動かす。また身近かな木琴がこんなにもあざやかに活躍することに耳をうばわれる。実際に身体反応して味わうのに適した教材である。

4. 計画

- 身体反応のしかたを知り、曲にあわせて反応する。
- リズムのおもしろさやくり返しに気をつけて聴く。

5. 展開1/1

- 身体反応のしかたを体得する。

間奏(待つ・右足でリズムをきぎむ)AA'の
部分(拍手)Bの部分(木琴奏のまねとバイ
オリン奏のまね)〈強拍を正しく把握して〉

- 静かに聞き話しあう。

以下略

(2)結果と考察

前記指導過程で、紀要2の学習の成立条件や教材の構成等をふまえ約1年6ヶ月の間、進めてきた。その結果を、拍子感と旋律感及び終止感の3つの要素について比較したのが次のグラフである。

月	曲名	時	目 標	指導の内容
	春 が き た	4	理解 (4)合奏の技能を高める。 (5)リズム問答の工夫。	がら歌いながら 縦線や終止線の 役割りの理解。 ●楽器のパート別 練習 ●指揮にあわせて 楽しく合奏する。
	④ うひな れしま いり	1	歌詞に合った歌 い方の工夫。	●ひなまつりの話 し合い。 ※息つぎに注意、 レガートに。

ウ 指導の重点

子ども自身が、

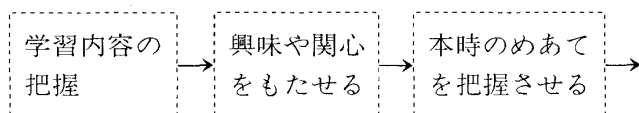
- 音楽の世界に吸いこまれていく学習
- 音楽のよさを知り、進んで活動をせまられる学習。

これは、のぞまれる期待すべき学習の姿である。ここに包みこまれた力となるべき基礎内容や表現技能を子どもたちは実際に経験し、直面することによって吸収し、その能力を高め、貯え、より主体的な表現活動へ働きかけようとするその過程が、音楽を愛好する子どもを育てることであり、ここに指導の如何が問われなければならないと思う。

- 中心教材を軸に指導内容の有機的な焦点化
- 表現・鑑賞の表裏一体性
- 音楽の生活化

②指導過程

※領域や内容によって多少のちがいはあるが、大部分の学習においては、下記の過程をたどることによって、その目的は達成されるようである。



表現練習や知的理
解要素の感得 鑑
賞等の学習

結果の
中間
評 価

まとめ又は、
次時学習への
見とおし等

4. 本年度(S 54年10月から)の実践とその考察

(1)本年度の実践例

二年 音楽科学習指導案(船橋市小室小にて)

1. 題材「ゆうやけこやけ」

2. 題材について

本来ならここでは下記について記入するのであるが省略する。(紀要2号うみを参照)

①教材の系統(紀要第2号うみの教材の構成についてウを参照)

②教材のもっている特色(歌詞、要素)

③題材としてとりあげた理由(児童の実態をふまえて→指導の目標に関係しての)

3. 目標

情景を想像し表情豊かに演奏できるようにさせる。

(1)階名視唱(奏)に親しませる。

(2)きれいな声で創造的に表現しようとする意欲を育てる。

(3)オルガンやハーモニカの演奏技能を育てる。

※創造させるもの(歌詞にあった歌い方の工夫)

身につけさせたいもの(2拍子感と階名唱(奏)及びハーモニカの演奏技能)

4. 計画

- きれいな声で発音に注意して歌う。

階名唱に慣れる。……………1時間

- ハーモニカやオルガンの旋律奏、簡単な合唱に慣れる。……………1時間

- 気持ちをこめて歌い、旋律聴音に慣れる。

- 補助教材きくの花……………2時間
(指導計画参照)

5. 展開

(1)3/3 時

(2)本時の目標

- 気持ちをこめて歌唱表現する。

音楽的感覚を高め、創造性を養う指導過程の研究(そのII)

月	曲名	時	目 標	指導の内容
12	こぎつね	4	<p>情景を想像し、楽しくはずんで歌うことができる。</p> <p>(1)ハ長調の視唱の導入</p> <p>(2)二部合唱に慣れさせる。</p> <p>(3)器楽合奏に慣れさせる。</p>	<p>●階名模唱→暗唱(聴唱法)。</p> <p>●歌詞内容から情景を想像し曲想の工夫をする。</p> <p>※発音発声に気をつけて表現。</p> <p>※対旋律を美しく</p> <p>●伴奏を聴き響きのある声で合唱</p> <p>●パート別の練習</p> <p>※各パートの音色を聴きとらせながら合奏表現する。</p>
1	ガラスのかお(2月は2月へ)	3	<p>歌詞の感じに合った歌い方ができる。</p> <p>(1)情景を想像させ表情豊かに表現できる。</p> <p>(2)♪、♪のまとめ</p>	<p>●歌詞内容を話しあい情景の想像をする。</p> <p>●フレーズごとに旋律を把握(範唱)</p> <p>●曲想の工夫(歌詞をよく読み)</p> <p>※1小節目のふと曲の山に注意して気持ちをこめて歌う。</p> <p>※濁音、鼻濁音に注意しのびのびとした発声で。</p> <p>※リズム唱(打)</p> <p>♪♪♪</p>
2	メヌエット	2	<p>主な旋律を口ずさみながら聴くことができる。</p> <p>(1)身体反応しながら聴かせる。</p> <p>(2)主な旋律や速さ</p>	<p>●情景について、話しあう。(さし絵を手がかりに)</p> <p>●3拍子の拍子をとったり3拍子で歩きながら自由に身体表現しながら聴く。</p> <p>●主な旋律を口ず</p>

月	曲名	時	目 標	指導の内容
	メヌエット	2	<p>に気をつけて聴かせる。</p> <p>(3)楽器の音色を感じとり舞曲に親しませる。</p>	<p>さみながら、聴かせる。</p> <p>※リズムや速さの特徴に注意して聴かせる。</p> <p>※弦楽器の美しい響きを感じとりその音色に親しませる。</p> <p>●美しさを味わう。</p>
2	ゆきゆきとけたよ	3	<p>旋律を聴き合いながら輪唱することができる。</p> <p>(1)情景を想像させ表情をつけて歌わせる。</p> <p>(2)他パートを聴きあって輪唱する技能を養う。</p> <p>(3)和声感の基礎を養う。</p>	<p>●歌詞内容を話しあい情景を想像する。</p> <p>●範唱を聴き、生き生きとした表情で歌う。</p> <p>●他のパートを聴きながら歌う。</p> <p>※音の重なりや、響きの美しさを感じとって歌わせる。</p>
	春(全校合唱)	2	<p>音の響きの美しさや楽しさを味わう。</p> <p>(1)指揮や伴奏に合わせて歌わせる。</p>	<p>●愛唱歌として楽しく歌う。</p>
	春がきた	4	<p>情景を把握し、表情豊かに表現することができる。</p> <p>(1)歌詞内容に合った歌い方の工夫</p> <p>(2)二部合唱に慣れさせる。</p> <p>(3)縦線・終止線の</p>	<p>●歌詞模唱→暗唱</p> <p>●階名視唱</p> <p>●曲想の工夫</p> <p>●パート別の練習</p> <p>※高音の発声に気をつける。</p> <p>よく響き合う歌声で合唱させる。</p> <p>●拍子打ちをしな</p>

月	曲名	時	目 標	指導の内容
10	おばけなんてないさ		リズム唱	リズム唱 ●伴奏を聴きよく響き合う歌声で輪唱させる。
		3	歌詞の内容を生かして表情豊かに歌うことができる。	●情景の把握（さし絵を手がかりに）。 ●旋律の把握（聴唱法）。 ●歌詞内容の理解しはぎれよく歌う。 ※3段目の歌い方を工夫。 ●表情豊かに歌う。（歌声に注意し）
		1	情景を想像しながら聴くことができる。 (1)自由に身体表現させる。	●さし絵を見て話しあう。 ●自由に身体を動かしながら聴く。 ●リズムや速さの特徴を感得。 ※場面を想像しながら聴く。
11	りすの子	3	情景を想像させ表情豊かに歌わせる。 (1)音程や発声に気をつけ歌うことができる。 (2)伴奏の響きを聴きながら歌うことができる。	●旋律の把握（聴唱法）。 ●りすの子の様子を想像しながら表情豊かに表現 ※「そっと」のリズム「かけながら」の音程に注意。
		5	情景を想像し表情豊かに歌わせる。 (1)ハ長調の視唱(奏)に親しみ、合唱合奏に慣れさせ	●情景の把握 ●階名模唱→暗唱（聴唱法） ●歌詞の内容にあった歌唱表現
			夕やけこやけ	

月	曲名	時	目 標	指導の内容
11	きくの花		る。	（頭声的発声） ●階名視唱 ●オルガン、ハーモニカの旋律奏 ※鍵盤楽器や打楽器の音を聴きながら合奏させる。 ※合唱のところは互いの声をよく聴き合って歌わせる。
			※きくの花 ●聴唱法で階名暗唱。 ●発声に注意しきれいな声で斉唱できる。	
12	かごめかごめ		楽しく遊びながら歌うことができる。 (1)木琴の奏法に慣れさせる。	●フレーズごとに範唱を聴いて歌う。 ●身体表現しながら楽しく歌う。 ●歌にあわせて木琴を打つ。 ※ばちの持ち方に注意。 ●呼びかけに答えて、自由にふし問答をする。 ※拍の流れにのせて、即興的に歌わせる。 ※身体表現の方法のわからない場合は指導する。
		2	レコードを聴きわらべ歌に親しむ (1)特色ある旋律を感じ取って聴く。	●わらべ歌を聴き遊んだ経験について話しあう。 ●身体表現しながら聴く。 ※レコードの音楽に合わせて遊ぶ。 ●身体表現しながら→まりつき遊び。

音楽的感覚を高め、創造性を養う指導過程の研究(そのII)

月	曲名	時	目 標	指導の内容
6	だんだん石だん	3	(1)リズムカルな曲 想表現。 (2)正しい発音。 (3)情景を想像させ 表情豊かに。	う。(はぎれよく) ●スキップリズム を正しく(身体 反応)。 ●歌詞内容の理解 とわらべ歌の感 じを表現。
	かえるのがっしょう	3	きれいな声で、 響きある輪唱をす ることができる。 (1)リズム伴奏の工 夫。 (2)オルガンに親し ませる。 (3)伴奏の響きに注 意し和音に親し ませる。	●範唱等によりフ レーズごとに旋 律をしっかり覚 える。 ●自分の歌声に注 意し、他声部に つられないよう。 ●歌に合わせてリ ズム打ちの練習 ♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪ ●輪唱に合わせて オルガンの根音奏 ●伴奏を聴いて響 き合う輪唱がで きるように。
	川はよんでる(全校合奏)	2	音の響きの美し さや楽しさを味わ う。 (1)指揮や伴奏に合 わせて歌わせる。	●上級生の合奏に 合わせて歌う。 (指揮を見て)
7	きちきちばった(補)べこの子うしの子	4	情景を想像させ ながら、楽しく歌 わせる。 (1)歌い方の工夫 (スキップ レ ガート)。 (2)リズム問答に慣 れさせる。	●歌詞の表す情景 を想像して楽し く。 ●リズムの特徴を とらえて歌う。 ●フレージングに 注意して歌う。 (息つぎを正しく) ※愛唱歌として歌 う中で、リズム カルな表現に慣 れさせる。

月	曲名	時	目 標	指導の内容
7	⑧ぞう	1	描写音楽に親し ませ、情景を想像 豊かに聴かせる。 (1)身体反応させな がら聴く。 (2)低音の旋律や低 音楽器に親しま せる。	●3拍子のリズム を口ずさんだり 体を自由に動か しながら聴く。 ●ワルツ風の旋律 の感得。 ●低音の響きの美 しさ。
9	虫がなく(補)はだかの王様	5	情景を想像させ 表情豊かに表現さ せる。 (1)気持ちをこめて やわらかい声で (2)曲想に合った打 楽器奏。	●フレーズごとに 聴唱法で旋律を 把握。 ●やわらかな発声 (息つぎ) ●歌詞の内容を生 かして表現。 ●リズム伴奏(ト ライアングルと 鈴の奏法)。
	⑧トルコ行進曲	1	情景を想像させ パトロール形式の 美しさを感じさせ る。 (1)リズム感の体得 (2)ピアノの音色や 独奏に親しませ る。	●曲に合わせて口 ずさんだり、体 を動かしながら 聴く。 ●リズムや拍子を とりながら聴く。 ●ピアノ独奏につ いて話しあう。 ※強弱に気をつけ て聴かせる。
10	だるまさん	4	伴奏の響きに気 をつけさせ、和声 感の基礎を養う。 (1)オルガンに親し ませ、順次進行 の旋律奏になれ させる。 (2)ハーモニカの演 奏技能を高める。 (3)音符を理解して	●聴唱法により旋 律を把握。 ●他声部につられ ないように輪唱 できるように。 ※オルガンの指づ かいに注意し対 旋律奏させる。 ●♪の呼び方や長 さを理解しての

歌唱教材→低学年（16曲） 中学年（15曲）
高学年（11曲）

合奏教材→全学年とも（3曲）

鑑賞教材→全学年とも（3曲）

視唱（奏）→ハ長調（3年から）

イ短調（4年から）

ヘ長調（5年から）

ニ短調（6年から）

重点

低学年→リズムの聴取と表現

中学年→旋律の聴取と表現

高学年→和声の美しさの感得

※指導計画は、前記(2)の趣旨及び評価の基準と上記の重点や、児童の実態等をふまえて作るのであるが、ここでは児童の実態を省略し、標準的なものの例を私なりに考えて記すことにした。

イ 年間指導計画(2年生の例) ※→留意点

月	曲名	時	目 標	指導の内容
4	はるはともだち	2 3	曲想を感得させやさしい気持ちで歌うことができる。 (1)ともだちと声を合わせて（発声・発音） (2)階名唱に親しませる。 (3)打楽器によるフレーズ感を体得させる。	●聴唱法でフレーズごとに。 ●春の季節感や情景について話し合いリズムカルに。 ●歌い方の工夫。（パンポンポン） ●部分旋律や階名唱や暗唱・分担唱。 ●カスタネットや鈴でのフレーズごとの拍打ち。 ●基本リズムフレーズの復習。
	かくれんぼ	3	情景を想像し、強弱を工夫して歌うことができる。 (1)曲に合った身体	●範唱を聴かせ、リズム・音程を正しく感得させる。

月	曲名	時	目 標	指導の内容
	かくれんぼ	3	表現の工夫 (2)打楽器に合わせて扱う。	●情景を生かし強弱に注意してうたえるように。 ●拍子や強弱に注意して打楽器が打てるように。 ●対話的な歌い方の工夫。
5	かつこう	3	曲想を感じとらせやさしくよびかけるように歌うことができる。 (1)音符休符を理解して表現させる。 (2)合奏できるようにさせる。	●聴唱による旋律の把握（含階名唱）。 ●歌詞内容にあった歌い方の工夫。 ●J♯の呼び方や長さ。 ●オルガンや鍵盤ハーモニカによる根音奏。 ●タンブリンやトライアングルでのフレーズ分担奏。 ●他パートの音を聴きあい楽しく合奏する。
	⑤ かつこうワルツ	2	身体反応しながら楽しく聴き、ワルツのリズムを感じとらせる。 (1)旋律を口ずさんだり身体反応させながら聴く。 (2)旋律の特徴を把握 (3)舞曲に親しませる。	●旋律の聴取及びワルツの拍子、リズムの体得（例→拍子に合わせて歩く）。 ●三部形式の感得 ●舞曲の理解。（簡単に）
			リズムによって楽しく歌うことができる。	●範唱により旋律の動きや曲の感じを把握して歌

表現することができる。

<5 学年>

- A 曲の拍子を感じとり、タクトをとることができる。
- B 言葉の抑揚に合わせて、即興的に旋律を歌ったり演奏したりすることができる。
- C 旋律に簡単な和音伴奏をつけることができる。

<6 学年>

- A 歌詞に合った短い旋律を作ることができる。
- B 自分が作った曲を歌ったり演奏することができる。
- C 旋律に簡単な和音伴奏をつけることができる。

④鑑賞能力

趣旨→音楽の美しさを楽しく味わって聴くことができる。

評 価

<1 学年>

- A おもな旋律を口ずさんだり、拍子を感じとって身体表現をすることができる。
- B リズム、旋律及び速さの特徴に気をつけて聴くことができる。
- C 主旋律のくり返しや、旋律の移り変わりをとらえることができる。

<2 学年>

- A おもな旋律を口ずさんだり、拍子を感じとり身体表現をしながら聴くことができる。
- B リズム、旋律及び速さの特徴を感じとり、曲の感じをとらえることができる。
- C 曲を聴いて、いろいろな楽器の音色を聴き分けることができる。

<3-4 学年>

- A 旋律を口ずさんだり、身体反応しながら聴くこと。
 - ①おもな旋律を階名で歌うことができる。
 - ②リズムに合わせ、指揮のまねをしたり、

ステップを踏むことができる。

- B 曲を特徴づけている旋律、リズム及び速さに気をつけて聴くことができる。
- C 曲を構成しているいろいろな旋律を聴き分け、くり返しや変化に気づいて聴くことができる。
- D 楽器の音色を聴き分け、固有の音色の美しさを感じることができる。

<5-6 学年>

- A 音楽の美しさを全体的に味わって聴くこと。
 - ①主旋律を口ずさんだり、覚えることができる。
 - ②曲のもつ気分を感じとることができる。
- B 楽曲の美しさ、楽しさなどの曲想と旋律・リズム・音色・速度・強弱などを関連づけることができる。
- C 曲の美しさと構成との関連に気をつけて聴くことができる。
- D オーケストラのさまざまな楽器の音色を聴きとり、オーケストラ全体の響きを楽しんで聴くことができる。
- E 人声の特徴を聴きとり、合唱の響きを楽しんで聴くことができる。

⑤音楽に対する関心、態度

<全学年>

- A 音楽を注意深く聴くことができる。
- B 音楽的な活動に関心をもち、表現や、鑑賞のレパートリーを身につけている。
- C 友達と合わせて歌ったり、演奏したりすることができる。
- D 音楽的経験を生かして生活を豊かにしようとしている。

3. 指導過程作成の手順

指導目標の設定<音楽科の一般目標、学校の教育目標や方針、児童の実態から>

~~~~~=(資料2を参照)

①カリキュラムの作成

ア 基準的なものを明確にする。



- D 美しい歌声に関心をもち、響きのある声で歌うことができる。
- E 和声の響きを感じとりながら、合唱することができる。
- F 和声のまとまりを生かして歌うことができる。

## ②器楽表現能力

趣旨→楽器を演奏する楽しさを感じとり、美しく演奏することができる。

### 評価

#### <1 学年>

- A ハーモニカで簡単な旋律を吹くことができる。
- B 打楽器で簡単なリズムを打ったり簡単な旋律を演奏することができる。

#### <2 学年>

- A 1 年に同じ
- B 打楽器で簡単なリズム伴奏をすることができる。
- C オルガンで簡単な旋律を探り弾きすることができる。

#### <3 学年>

- A 歌に合わせ、オルガンで主旋律や副旋律を弾くことができる。
- B 曲に合わせ、ふさわしい強さや速さで打楽器を打つことができる。
- C 笛の基本的奏法に慣れ、やさしい旋律を吹くことができる。
- D 簡単な二重奏ができる。

#### <4 学年>

- A 歌に合わせ、オルガンや笛で主旋律や副旋律を演奏することができる。
- B リズムを正確に、美しい音色で打楽器を打つことができる。
- C オルガンや笛で簡単な二重奏や三重奏ができる。

#### <5 学年>

- A いろいろな旋律楽器や打楽器に親しみ、それぞれの音色の特徴を知ることができる。

る。

- B 音色の特徴を生かして、曲を美しく演奏することができる。
- C 簡単な二重奏・三重奏ができる。

#### <6 学年>

- A 旋律楽器や打楽器の音色の特徴を生かして、曲をより美しく表現することができる。
- B 楽器の演奏技能を高め、重奏することができる。
- C 曲想にふさわしく表情豊かに演奏することができる。

## ③即興表現能力

趣旨→ふしを作って演奏したり、身体表現を工夫したりして、進んで創造的な表現ができる。

### 評 価

#### <1 学年>

- A 拍を打ちながら、聴いたり歌ったりできる。
- B 拍の流れを感じとって自由な身体表現をすることができる。
- C 簡単なリズム遊びやふし遊びをすることができる。

#### <2 学年>

- A 拍の流れを感じとって、自由な身体表現をすることができる。
- B 言葉や楽器を使って、リズム問答やふし問答をすることができる。

#### <3 学年>

- A 音楽に合わせて拍打ちしながら、リズム遊びやリズム問答をすることができる。
- B 旋律を歌いながら、自由な身体表現をしたり、手や楽器で曲に合ったリズム伴奏ができる。

#### <4 学年>

- A 2 拍子・3 拍子・4 拍子のタクトをとって歌うことができる。
- B 速度の変化に応じて、音楽の流れを身体

音楽的感覚を高め、創造性を養う指導過程の研究(そのⅡ)

|                  |                                                                                               |                                                                                                 |                                                |                                         |                      |                       |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------|-----------------------|
| 感<br>覚           | ※からだの動きで音楽を感じとり2拍子の基本リズムフレーズになれさせる。<br>1.身体表現を通して拍感を身につける。<br>2.三つの基本リズムフレーズ<br>3.曲に合わせてあわせる。 | ※身体表現を通して、2、3拍子を感じとらせる。<br>1.曲に合わせて手拍子をうったりからだを動かすことができる。<br>2.曲をきいて2拍子と3拍子のちがいをききわけ、からだで反応できる。 | ※分割されたりリズムや連結されたりリズムを正しく把握させる。<br>→ 1.リズム聴音～記譜 | ※いろいろな拍子になれさせる。<br>1.身体反応を通して拍子感を身につける。 | ※速さの変化や複雑なリズムになれさせる。 | ※創造的なリズム表現ができるようにさせる。 |
| う<br>た<br>い<br>方 | ※どならないで声をそろえてたのしくうたわせる。<br>1.歌詞を大切に(歌詞や曲の内容にそくした表現)-----含む身体表現<br>2.歌の中で発声の基本を                | ※やわらかい発声でリズム、音程を正しく。<br>→                                                                       | →                                              | ※頭声の発声で、いろいろな唱法になれさせる。                  | ※ひびきのある頭声的発声         | →                     |

イ 音楽に関する児童の実態や、地域の実情についての理解(調査)

ウ 基礎課程表の作成(COSの各学年の内容分析と再構成により)

- 基礎的な技能や感得事項の系統的な積みあげ
- 発展過程を明確にする。

※ 以下が1つの例である。

(2)趣旨及び評価の基準

①歌唱表現能力

趣旨→歌う楽しさを感じとり美しく歌うことができる。

評 価

<1-2 学年>

A 範唱や範奏を聴いて歌うこと。

①範唱や範奏を聴いて、フレーズごとの旋律模唱や階名模唱ができる。

②曲全体をのびのびと歌うことができる。

B 自分の歌声を聴きながら歌うことができる。

①自分の声に注意して歌うことができる。

②友達と声を合わせて歌うことができる。

C 伴奏を聴いて歌うこと。

①伴奏に合わせて歌うことができる。

②前奏を聴いて歌いだしをそろえることができる。

③和声のまとまりを生かして歌うことができる。

<3 学年>

A ハ長調の旋律を視唱すること。

①ハ長調の旋律を階名で視唱できる。

②旋律のまとまりを感じとることができる。

B 歌詞の内容を理解して、気持ちをこめて歌うことができる。

C 言葉の抑揚に注意して歌うことができる。

D 音の重なった響き合う美しさを感じながら、合唱や輪唱をすることができる。

<4 学年>

A ハ長調及びイ短調の曲を視唱することができる。

B 歌詞の内容を理解し、曲想にふさわしい歌い方ができる。

C 姿勢や口の形に気をつけて、はっきりした発音で歌うことができる。

D 音の重なり響き合う美しさを感じながら、各声部の音程や音色をそろえて合唱することができる。

<5 学年>

A ハ長調の旋律を視唱することができる。

B 曲想にふさわしい豊かな表現を工夫して歌うことができる。

C 言葉の抑揚に注意して、拍の流れののって歌うことができる。

<6 学年>

A ハ長調及びニ短調の旋律を視唱することができる。

B 発想記号を生かして表情豊かに歌うことができる。

C 響きのある声で歌うことができる。

(7)児童・生徒の実態と地域的な特性を考慮する。

## 2. 指導過程の作成

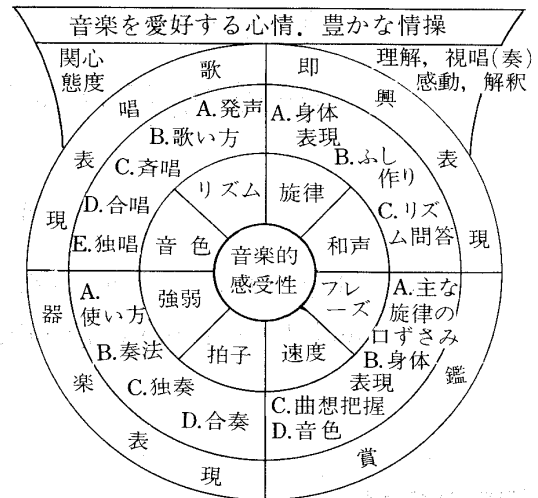
### (1)準備

#### ①基本的におさえるべきこと。

ア 音楽教育目標について研究し、理解する。

＜一般目標，学年目標，系統性関連性の構造的な理解＞

資料1 (音楽科の目標及び観点の構造図)



資料2 (音楽科の目標および基本的指導事項)

| 学年<br>項目                                                      | 1                                                                                                                               | 2                         | 3                                                                              | 4                                     | 5                                                                                                                        | 6             |
|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 目<br>標                                                        | (1) 音楽の美しさを感じとらせるとともに、音楽についての興味や関心をもたせる。<br>(2) <u>リズムの聴取や表現に重点を置いて、表現及び鑑賞の能力を養う。</u><br>(3) 音楽経験を生かして、生活を明るく楽しいものにする態度と習慣を育てる。 |                           | (1) 音楽の美しさ……音楽活動をしようとする意欲を育てる。<br>(2) <u>旋律の聴取や表現に重点を……。</u><br>(3) 1, 2 年と同じ。 |                                       | (1) 音楽の美しさを……進んで音楽活動をしようとする意欲を育てる。<br>(2) 合唱、合奏及び鑑賞の活動を通し、 <u>和声の美しさを感じ取らせることに重点を置いて、表現及び鑑賞の能力を養う。</u><br>(3) 1, 2 年と同じ。 |               |
| 内<br>容<br>と<br>指<br>導<br>事<br>項                               | ア、範唱(奏)を聞いて歌うこと。→                                                                                                               |                           | ア、1.2年プラス ハ長調の旋律の視唱視奏<br>ア、1～3年プラス イ短調の旋律の視唱、視奏                                |                                       | ア、1～4年プラス へ長調                                                                                                            | ア、1～5年プラス ニ短調 |
| 表<br>現<br>能<br>力<br>に<br>つ<br>い<br>て<br>の<br>指<br>導<br>事<br>項 | イ、リズムフレーズの拍の流れを感じ取って、演奏したり身体表現したりすること。→                                                                                         |                           | イ、1.2年と同じ→                                                                     |                                       | イ、1～4年プラス、リズムや速度の変化に応じて……→                                                                                               |               |
|                                                               | ウ、曲想を感じ取り、また、歌詞の表す情景を想像して表現すること。→                                                                                               |                           | ウ……歌詞の内容を理解して演奏の工夫を工夫すること。                                                     |                                       | ウ、曲想を味わい、また歌詞の内容を理解して。                                                                                                   |               |
|                                                               | エ、自分の歌声をききながらうたうこと。                                                                                                             | エ、歌声及び発音に気を付けてうたうこと。→     | エ、呼吸の仕方に気を付けて頭声的発声でうたうこと。                                                      |                                       | エ、4 年 プラス ひびきのある頭声的発声でうたうこと。→                                                                                            |               |
|                                                               | オ、ハーモニカ及び打楽器に親しみかんたんなリズムや旋律の演奏                                                                                                  | オ、ハーモニカ及び打楽器の演奏とオルガンに親しむ。 | オ、2 年プラス笛(したしむ)                                                                | オ、音色に気を付けて旋律(打)楽器を演奏すること。→            |                                                                                                                          |               |
|                                                               | カ、リズム遊びやふし遊びをし、即興的にリズムや旋律を工夫して表現する                                                                                              | カ、リズム問答やふし問答をし……(1 年と同じ)  | カ、言葉の抑揚に合わせて即興的に短い旋律を工夫して表現すること。→                                              |                                       |                                                                                                                          |               |
|                                                               | キ、伴奏のひびきをきいて歌うこと。また互いに歌声や楽器の音をきき合って演奏すること。→                                                                                     |                           | キ、音の重なりを感じとって、合唱や合奏をすること。                                                      |                                       | キ、和声のひびきを味わって合唱や合奏をすること。                                                                                                 |               |
|                                                               | ア、旋律を口ずさんだり、身体反応をしたりしながらきくこと。→                                                                                                  |                           |                                                                                |                                       | ア、音楽の美しさを全体的に味わってきく。                                                                                                     |               |
| 鑑<br>賞<br>に<br>つ<br>い<br>て                                    | イ、リズム、旋律及び速さの特徴に気を付けてきく。                                                                                                        |                           | イ、楽器を特徴付けている音楽の要素に気を付けてきく                                                      |                                       | イ……要素と曲想とのかかわりに気を付けてきく。                                                                                                  |               |
|                                                               | ウ、主な旋律に気を付けてきく。→                                                                                                                |                           | ウ、主な旋律とその反復及び変化に気を付けてきく。                                                       |                                       | ウ、4 年プラス対照ならびに全体の構成に気を付けてきく。                                                                                             |               |
|                                                               | エ、いろいろな楽器の音色に気を付けてきく。                                                                                                           | エ、いろいろな楽器の音色の特徴を感じとってきく。  | エ、バイオリン。トランペット。フルート及びたて笛の音色にしたしむ。                                              | エ、3 年プラス。チェロ。ホルン。クラリネット。オーボエの音色にしたしむ。 | エ、オーケストラの楽器のそれぞれの音色及び人声の特徴を感じとり、それらの組み合わせによるひびきを味わってきく。                                                                  |               |
|                                                               |                                                                                                                                 |                           |                                                                                |                                       |                                                                                                                          |               |

# 音楽的感覚を高め、創造性を養う 指導過程の研究(そのII)

近 藤 すなほ

Study on the Music Pedagogy to quicken the Musical Sense  
and develop the Originality (part II)

by Sunao Kondo.

## 研究の目標

- 1 諸要素（特に大切な）をとり入れた指導過程をくふうし、現場での実践を通し、改善しながら一般化をはかる。
- 2 上記の実践を通して、特に音楽的感覚を身につけ、創造的な表現能力を伸ばし、音楽を愛好する心情を育てるとともに、基礎能力の定着をはかる。

## 研究の仮説

- 1 児童の能力の実態を把握し、今までの指導過程を分析し、改善することにより音楽的感覚が身につく、創造的表現能力の向上が期待できる。
- 2 児童の能力に応じた系統的な教材を整えることにより、効率的な指導ができ、基礎能力の向上や創造性もより一層伸ばすことが期待できる。

## 研究の経過

昨年度は、児童の主な音楽的能力の実態を把握するとともに、実践された指導案を検討し、指導過程を吟味してきた。概要を列挙すると下記のとおりである。

- 1 音楽教育における創造性についての考え方を明確にし、共通理解をはかるための資料としてまとめる。

- 2 児童の音楽能力を診断し、その結果を考察、対策として指導過程の改善に重点をおき研究を進める。
- 3 教材の構成や分析の観点について集約し、教材研究の基本資料とする。
- 4 海神南小他4校の児童を借りて実験授業をする。

## 本年度の研究内容

望ましい指導過程(計画)の試案作成と実践

### I. 指導過程作成に際しての留意点

- (1)歌唱表現、器楽表現、即興表現、鑑賞等のいずれかの1つにかたよらず、それぞれが有機的統合的に取り扱うよう教材のもつ要素等を把握し配慮する。
- (2)知的理解に先だち、感覚的訓練に重点をおく。(特に低学年では、身体の動きを伴った学習を多く経験させる。)
- (3)技術的な面の向上と同時に美しい音楽にふれて感動する学習を重視する。
- (4)読譜・記譜の指導は、無理なく、系統的、発展的な指導を進めると同時に、旋律楽器の指導を充実して、自主的な音楽活動ができるよう配慮する。
- (5)歌唱指導においては、移動ド唱法を原則とする。
- (6)変声期に入っている児童・生徒については、教材の選択、パートや声域を考慮する。